

# 富山・桜町遺跡

さくらまち

1 所在地 富山県小矢部市西中野字鷺場

2 調査期間 一九八一年(昭五五)七月～一〇月

3 発掘機関 小矢部市教育委員会

4 調査担当者 伊藤隆三・安念幹倫

5 遺跡の種類 水路跡

6 遺跡の時代 江戸時代中期

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡は市域中央部を北流する小矢部川左岸、およびこれに西方より合流する子撫川右岸の低段丘上にあり、六〇万㎡におよぶ広大な面積をしめる。縄文から奈良にいたる各時代、および中・近世の遺物が採集されるが、その中心は奈良時代にある。



(石動)

この遺跡を東西に縦断して、国道八号線小矢部バイパス建設が予定されており、これに先立って建設省から

の委託事業として、一九八〇年(昭五五)より発掘調査を継続している。木簡は一九八一年(昭五六)に実施した発掘調査によって確認された、江戸時代中期の水路跡から発見された。この水路は幅七m、深さ〇・八mを測り、調査区を南北に横断する。ほぼ小矢部川に添っており、このまま北流し子撫川に合流するものと思われる。ここから、該期の陶磁器をはじめ多量の木製品が出土した。下駄、櫛、桶、曲物、箸、漆器、独楽などがあり、これに三〇点余りの木簡が含まれる。

一八世紀後半の当地(今石動)は加賀前田藩の統治下である。今石動周辺は、古来より軍事、交通の要地とされるところであるが、この当時は、参勤交代の際の宿泊地、あるいは米の集散地としての役割りを担っていた。

## 8 木簡の积文・内容

以下の积文は、富山大学人文学部(現京都大学文学部)鎌田元一氏および、奈良国立文化財研究所鬼頭清明氏によるものである。

(1) [ ] 新 [ ] (次郎カ)

・ [ ] (佐カ)

84×(21)×4 011

(2) ・ [ ] 「。御露地口」

・ [ ] 「。御露地口」

57×17×3 011

- (3) ・「。三文」  
 ・〔富カ〕村  
 与兵衛  
 96×25×8 011
- (4) ・「。□十文 取」  
 ・「。□」  
 (暁) 〔暁〕  
 103×25×5 011
- (5) 〔口カ〕  
 134×23×7 011
- (6) 「。一四文つゝ  
 二 田川与兵衛」  
 100×26×5 011
- (7) ・「。旧本之内 小」  
 〔相兵衛〕  
 166×34×7 011
- (8) ・「。□ 与左衛門」  
 ・「。貳升一人 兵衛」  
 〔合カ〕〔初カ〕  
 152×35×6 011
- (9) ・「。細工町 体三市」  
 〔民カ〕〔出カ〕  
 越加  
 183×39×5 011
- (10) ・「。西」  
 〔酒カ〕  
 ・「。今九」  
 40×(13)×4 022

(11) ・「大瀧村」

・「大瀧村」

56×17×2 022

(12) ・「。□□□□」

・「。□□□□」  
 〔人カ〕〔はカ〕  
 〔久カ〕  
 〔衛門〕

(102)×37×5 019

(13) ・「。〔安カ〕永三年歳正月改□×」  
 ・「。×□步二一尺〔前カ〕〔角カ〕持□×」

(172)×18×4 081

出土した木簡は荷札あるいは付札として使用されたと思われる、  
 矩形乃至短冊型のものが最も多い。このほか容器(曲物)蓋などに記  
 されたものがあり、また削屑一点も含まれる。

内容では、地名、人名および、山号、寺名を記したものが比較的  
 多く、ことに地名、寺名などでは現地を比定できるものが少くない。  
 なお、紀年を有するものが一点あり、安永三年(一七七四)の記載  
 がある。

## 9 関係文献

小矢部市教育委員会「桜町遺跡(古苗代・鷺場地区)」(小矢部市埋蔵  
 文化財調査報告書第九冊 一九八二年)

(伊藤隆三)